

ビジュアル系
子ども・家族の
理解と支援

4・超具体的に
コミュニケーション
を支援（児童期編）



次ページのシーソーは、前回の幼児期編に積み上げる児童期のスキルです。
この時期、幼児期に確保した「家の居場所」を基地に、子どもたちは社会（学校）に出て行きます。

ちなみに、学校は教育と競争と協調の場です。なにせ3Kですから、家とは違って戸惑うことは多いでしょう。

2. 学校の居場所につながる “児童期の課題”



心のバランス

A horizontal green bar with the text '心のバランス' (Mental balance) centered inside it.

学校に居場所がないまま、義務で週五日
6〜7時間を過ごす。しかもそれが何年
間も続くなんて、もう地獄です。
そんなことにならないようにと、今回も
ママ友パパ友が知恵を出し合います。

※ マンガは団士郎氏の許諾を得て、木陰
の物語と家族の練習問題から転載していま
す。

ええで



(1) 予測と選択

下の子なんだけど、自分で決められないうえに、なんでも人のせいにするところがあるの。なんとかしたいんだけど、どうしたらいいかな？



“こうすればこうなるだろう”と結末予測付きで複数の選択肢を伝え、その上で自分で決めるように導いたらどうかな。自分にとってどちらが得か、という目盛りも必要かもね

(2) 原因より目的

「(学校で) なんでケンカになったんだ?」と問うといいわげばかり言うんだ。それでだんだん腹が立ってきて、結局、怒鳴り散らすだけで終わってしまった。こんなとき、どう言ってる?



「目的はなんだったんだ?」
「それならもっといい言い方があるよ、たとえば~」、どう?
これだとお互いに怒りが生じない。再発防止にも繋がるし

(3) 頼み上手

夫が、頼まれもしないのに
子どもに手を貸すのは過保
護じゃないかと言うのよ。じ
ゃあ、お節介や手助けとの
違いは？と聞くと、それは知
らん！だって



「手伝えることがあったら言って」
と伝えておいて待つ、それがい
い“手の貸し方”だと思う。社会
にでたら手伝ってと言わないと
誰も助けてくれない、亭主はそ
れを言いたかったんじゃない？

(4) 四通り、プラス・アルファ

10歳までは、「えらいね、ダメよ、勝手にしなさい、できたらご褒美」の4通りを組み合わせれば何とでもなったのに、最近は難しいわ



うん、それに加えて“提案、謝意、教えて”を活用するといいわ。これだとけっこう動いてくれるよ

(5) 理不尽さとの折り合い

登校を渋りながら、学校は何のためにあるのか教えてシッコイんだ。どう説明したらいいかなあ

ちゃんと教えた方がいいよ。学校の意味の一つ目は校内の“教室・運動場・自由時間”のいずれかに自分の居場所を見つけること。これは社会で生きていくための予行演習だ。二つ目は、“学校にいっぱいある理不尽さ”と折り合いをつけること。こっちは社会で生きるためのワクチン。で、どう？

